

令和元年 8 月 31 日 (通巻第 172 号)

ボウルズ・ジャパン ブリテン

発行元：認定 NPO 法人ローンボウルズ日本 総務部

一般情報など

(1) タイからオープン国際大会への参加募集案内が来ました。

主催者：The Paradise Villa Lawn Bowls Club

(住所：タイ国、チョンブリー県、Nongprue 市＝パタヤ市の隣)

期間：2019 年 12 月 26 日から 29 日まで(26 日の 17:00 からマネジャー・ミーティングあり)

会場：The Paradise Villa Lawn Bowls Club

競技種目：男女不問シングルス (一人 3 球)

男女不問ペアーズ (一人 3 球)

男女不問トリプルズ (一人 2 球)

大会参加費：一人 1,500 バーツ (約 6,000 円) 1 チーム 3 人で申し込む必要あり。

(大会期間中の昼食費と最終日の表彰パーティー費が含まれる。航空券およびホテル手配は自己手配。)

表彰：優勝者、準優勝者にトロフィーおよび副賞賞金が授与される。

申し込み：参加希望者は、チーム単位で 10 月末日までに BJ 事務局に申し込んでください。

(3) 香港からの来訪予定

かなり早すぎるのですが、確実な予定ですのでお知らせします。リンクの予約確保について関係者の皆様のご協力をお願いします。このクラブは 2017 年 3 月 29 日～4 月 2 日まで 25 名で来訪し、このときは明石だけで交流ゲームを持ちましたが、今回は明石およびしあわせの村の 2 か所で交流ゲームを持つ予定で来訪されます。

来訪者：香港 Yuen Long Lawn Bowls Club から約 30 名のボウラー

交流会の予定：2020 年 3 月 29 日 (日) 明石公園にて

9:00～17:00 まで 7 リンクを使用して交流ゲームを持つ。

18:00～ 明石駅周辺にて交流ゲーム参加者全員で交流夕食会を持つ。

2020 年 4 月 1 日 (水) しあわせの村にて

9:00～17:00 まで 7 リンクを使用して交流ゲームを持つ。

18:00～ 村内レストランにて交流ゲーム参加者全員で交流夕食会を持つ。

交流会の参加者：後日、それぞれの会場ごとに参加希望者を募集いたします。

2019 年 8 月の行事、活動などの結果

(1) 第 6 回ジャパンオープン大会の実行委員会 (4 回目) を開催

主催：B J 国際部

場所：明石公園 公園事務所西館2階 研修室

日時：8月16日（金）13:00～16:00

結果：20名が参加して、実行グループごとの準備進捗状況の報告などにより、情報の共有化をはかった。海外チームおよび日本チームの出場選手、チーム名、チーム No. などが次のように最終決定した。

	チーム No	チーム名	選手名（所属クラブ）
海外 チーム	A1	中国 牡丹 China Peoney	Ye Sui Ying、Liu Guo Qing Liu Yuan Ying (Ms)
	A2	マレーシア 虎 Malaysia Tiger	Kamarudin Saad、Ainil Ismail、 Muizzudin Sanp、Khalidah Sarip (Ms)
	A3	香港 バウヒニア Hong Kong Bauhinia	KaHo Lee、Jordi Li、 Cherry Tsoi(Ms)
日本 チーム	A4	さくら Cherry blossoms	廣内鐵也、小山裕木恵、 小山 潤 (LC 京都)
	A5	やまゆり Golden-rayed lily	岩崎一平、安達順一 (YC&AC) 安田加津子 (YLBC)
	A6	すずらん Lily of the valley	山根英輝、野上京子、西口 明 (神戸 タッチャーズ)、檜垣英男(ALBC)
	A7	ひまわり Sunflower	江村裕子、松岡 緑 (オーストラリアクラブ) 田町智之 (甲南)
日本 チーム	B1	コスモス Cosmos	一瀬民子、伊東重光 (YLBC) 江村健一 (ローンホウルズ 東京)
	B2	なでしこ Fringed pink	木藤直樹 (愛知)、合田洋子 (学園ワイズ) 旭 吉功 (ALBC)、船引啓吾 (個人)
	B3	きく Chrysanthemum	関 政美、長島俊和、垣内紀子 (ALBC) 島 美里 ((LC 京都)
	B4	のじぎく Chrysanthemum japonenses	植松博至、川村信子、児島久雄、 郭 善芳、平松康雄 (兵庫車椅子)
海外 チーム	B5	珠海 (中国) 蓮花 Zhuhai Lotus Flower	Jacky Wong、Song Su Zhen(Ms)、 Yu Xiao Yan (Ms)
	B6	マレーシア ハイビスカス Malaysia Bunga Raya	Ramble Oxley、Azlan Azman、 Rozini Rozland、Safura Ridwan (Ms)
	B7	フィリッピン ジャスミン Filippine Sampaguita	Angelo Morales、Hazel Jagondy(Ms)、 Ronaly Greenlees (Ms)

対戦方式：予選ラウンドは、A,Bそれぞれのグループ内での総当たり 6ゲームおよび別グループの同一 No.チームとの対戦 1ゲーム の合計 7ゲームの合計により A,Bそれぞれのグループ内で 1位から 7位までの順位を付ける。

決勝ラウンドは、Aグループの1, 2位およびBグループの1, 2位の合計4チームによる勝ち抜き戦により最終の1位から4位を決定する。

同様に、Aグループの3, 4位およびBグループの3, 4位の合計4チームによる勝ち抜き戦により最終の5位から8位を決定する。以下同じ。

(2) 令和元年度第2回B J理事会 (Eメール理事会) の開催

日時：8月10日(土)

場所：今回は、具体的に検討する議題も少ないため、集合会議方式とせずメールによる理事会方式とした。

議題：令和2年度日本選手権大会の計画案についての検討

採決結果：8月31日 期限で集約予定

(3) SVリーグ2019年度前期大会(第5,6節)

主催：B J 関西支部 主管：SVリーグ実行委員会

リーダー：ALBC、会計：学園ワイズメンズクラブ、記録：村人クラブ

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：8月7日(水)、24日(土) 9:30~13:00 (7~9月の間は、受付9:00までに完了)

結果：

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
チーム名	村人クラブA	タッチャーズ-C	ALBC-A	タッチャーズ-B	兵車車椅子	ALBC-B	タッチャーズ-A	学園-A	学園-B	村人クラブB
勝点	34	31	28	27	25	24	21	20	18	9
点差	+49	+63	+14	+2	-1	+36	-26	-10	-43	-84

(4) Mリーグ2019年度上期大会(第9,10節)

主催：B J 関西支部 主管：Mリーグ実行委員会

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：8月10日(土)、25日(日) 9:00~12:00

競技内容：チーム編成は当日の抽選にて決定。参加人数によりペアーズ、トリプルズ戦を行う。ポイントの計算方法は、{勝ちエンド数×1ポイント+ゲーム勝利のとき2ポイント(引き分けなら1ポイント)}

表彰：70%以上の出席者で期間中の1試合当たり平均ポイントによる

成績結果：8月25日終了時の成績は以下の通りです(出席率70%以上の者)。

	氏名	平均ポイント	ポイント合計	出場試合数
1位	安部 宏 (ローンボウルズ神戸)	6.27	94.00	15
2位	梶原洋介 (生涯スポーツ)	6.05	115.00	19
3位	宮崎宗久 (神戸タッチャーズ)	6.00	90.00	15

(5) 中崎リーグの8月の結果

主催：ローンボウルズ中崎

日時：8月5日(月)、19日(月) いずれも 12:30~17:00

場所：明石市中崎遊園地内ローンボウルズグリーン(天然芝、4リンク)

結果：

	8月5日(第3回)	8月19日(第4回)
1位	前林典子(LB中崎)	松本明美(LB中崎)
2位	樽井啓祐(BSC)	松本惣一(ALBC)
3位	関 政美(ALBC)	関 政美(ALBC)

(6) Aリーグカップ2019年後期大会(第3、4節)

主催：BJ関西支部 主管：Aリーグ実行委員会

場所：明石公園ローンボウルズグリーン

日時：8月4日(日)、18日(日) 12:45~16:00

結果：8月18日 終了時の成績結果は次の通り。

	A-1リーグ		A-2リーグ	
1位	檜垣英男(ALBC)	51点	樽井啓祐(BSC)	48点
2位	南川義和(学園ワイズ)	46点	平松康雄(兵庫車椅子)	46点
3位	小野叶子(ALBC)	45点	児島久雄(兵庫車椅子)	42点

(7) 「第74回全国レクリエーション大会2020ひょうご」プレ大会 チャレンジボウル2018大会

主催：NPO法人 兵庫県レクリエーション協会、公益財団法人 日本レクリエーション協会

主管：NPO法人グループわ、W i n g ローンボウルズクラブ

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：8月31日(土) 9:00~17:00

競技方法：男女不問ペアーズ種目、1人4球×8エンド(または65分タイムアップ)戦を4試合実施する。

参加申し込み先：神戸タッチャーズ 坂本泰治氏(先着20チームで締め切る)

参加費：1チームあたり2,000円

(8) 男女ペアーズ日本選手権大会関東地区予選会

主催：認定NPO法人ローンボウルズ日本(BJ)

主管：BJ関東支部

場所：YC&ACローンボウルズグリーン

日時：8月24日(土)~25日(日)

結果：本年度の関東地区予選会は男女ともに申し込みペアー数が、地区割り当て数以下であったため、予選会は実施されず申し込み全ペアーが本戦出場権を獲得されました。

本戦出場選手は以下です。

男子 ・ Alex Hendy : Marcel Neiderhauser (前年チャンピオン)
・ George Isiguro : Toshiharu Saito
・ Tomohiro Hamada : Hirofumi Nakajima
・ Shigemitsu Itoh : 依田成史

女子 ・ 浜田 早織 : 安田加津子

(9) 外部研修会への参加

名称 : スポーツ団体におけるインテグリティ (高潔性) に関する研修会

目的 : 令和元年6月にスポーツ庁からスポーツ団体ガバナンスコード (団体の運営・統治に関する基準) が発表され、スポーツ団体に対して来年度からその適合性審査が開始されることになった。(この審査結果の点数により、国や自治体からの助成金・補助金などの承認程度が左右されるようになる。) この制度の正しい理解、習得をはかるための研修会である。

主催 : 公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会

共催 : スポーツ庁

場所 : ベルサール東京日本橋 大会議室

日時 : 8月30日 (金) 13:30~16:00

出席者 : 山田会長

(10) サンTVがローンボウルズ取材

8月18日 (日) 9時から14時までサンTVが明石公園ローンボウルズ・グリーンに来てAリーグ大会の様子を取材していきました。WMG2021 関西大会で兵庫県内で開催される種目について順次に取材し、放送するとのこと。

ローンボウルズについては9月1日 (日) 朝8:30からの「ひょうごトピックス!」というサンTVの番組で、5分間に圧縮した内容が放送されます。

2019年9月以降の計画、予定

(1) 第6回ジャパンオープン大会の実行委員会 (第5回) の開催

主催 : BJ国際部

場所 : 明石公園 公園事務所西館2階 研修室

日時 : 9月12日 (木) 14:00~17:00

内容 : 各実行グループごとの進捗状況の報告と情報の共有化

(2) SVリーグ2019年度前期大会(第9,10節)

主催 : BJ関西支部 主管 : SVリーグ実行委員会

リーダー : ALBC、会計 : 学園ワイズメンズクラブ、記録 : 村人クラブ

場所 : 神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：9月4日（水）、21日（土）9:30スタート～（受付：9:00～）
競技内容：ペアーズ戦を2ゲーム行う。一人4球×8エンド（65分時間制限）

（3）Mリーグ2019年上期大会(第9,10節)

主催：BJ関西支部 主管：Mリーグ実行委員会

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：9月11日（水）、29日（日）9時15分スタート（9時10分までに受付完了のこと）

競技内容：チーム編成は当日の抽選にて決定。参加人数によりペアーズ、トリプルズ、
フォアーズ戦を行う。8エンド戦を2ゲーム行う。

ポイントの計算方法は、{勝ちエンド数×1ポイント+ゲーム勝利のとき2ポイント（引き分け
なら1ポイント）}

参加申込み：事前申込みは不要。当日、会場への来場で可。

参加費：一人200円。チーム編成は当日の抽選にて決定。

（4）中崎リーグの9月の開催

主催：ローンボウルズ中崎

場所：明石市中崎遊園地内ローンボウルズグリーン（天然芝、4リンク）

日時：9月2日（月）、16日（月）いずれも12:30～17:00

募集人員：max. 24名（当日自由参加）。組み合わせは、当日抽選による

（5）Aリーグカップ2019年後期大会(第5,6節)

主催：BJ関西支部 主管：Aリーグ実行委員会

場所：明石公園ローンボウルズグリーン

日時：9月1日（日）、15日（日）9:45～13:00（夏季 暑さ対策）

参加申込み：事前申込みは不要。当日、会場への来場で可。

参加費：一人200円。チーム編成は当日の抽選にて決定。

（6）男女ペアーズ日本選手権大会関西地区予選会

主催：認定NPO法人ローンボウルズ日本（BJ）

主管：BJ関西支部

場所：明石公園ローンボウルズグリーン

日時：9月7日（土）～8日（日）

内容：男子10チーム、女子6チームが出場し、本選出場枠（男子8チーム、女子3チーム）
獲得をめざして競技する。

1ゲームは一人3球×8エンド（ただし75分の時間制限付き）。

(7) 初心者ローンボウルズ大会

主催：B J 関西支部

後援：ひょうご生涯スポーツ実行委員会（兵庫県教育委員会）

場所：しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：9月14日（土）9時～17時

内容：経験1年以内程度の初心者を対象にして、ローンボウルズの講習および競技会体験をしてもらう。

(8) MIXトリプルズ日本選手権大会

主催：認定NPO法人ローンボウルズ日本（B J）

主管：B J 関東支部

場所：横浜 YC&AC ローンボウルズグリーン

日時：9月15日（土）

(9) 男女不問フォアーズ全国オープン大会

主催：認定NPO法人ローンボウルズ日本（B J）

主管：B J 関東支部

場所：横浜 YC&AC ローンボウルズグリーン

日時：9月16日（月、祝）

(10) 障がい者LB教室

主催：兵庫車椅子ローンボウルズクラブ

日時：9月1日（日）、9月16日（月、祝）、22日（日）

場所：しあわせの村ローンボウルズグリーン

(11) 障がい者LB大会

目的：障がい者ローンボウルズの普及・振興のため

主催：日本障がい者ローンボウルズ連盟

後援：認定NPO法人ローンボウルズ日本障がい者LB部

主管：兵庫車椅子ローンボウルズクラブ

場所：明石公園ローンボウルズグリーン

日時：9月28日（土）9:00～17:00

参加資格：障がい者手帳などのような公的に障害を証明するものを有し、競技において介護を必要としない者。

会員からの投稿

2019年アジア太平洋大会に出場して

オーストラリアクラブ 松岡 緑

2019年のAP大会にはフォーズ（サード）とペア（スキップ）で出場した。

まずゴールドコーストのグリーンは私が普段プレーしているニューサウスウェールズとは違って、

- 1) 時間によって状況の変わる度合いが高い（朝露で重く、昼になって早くなり、また夕方になって影ができると重くなった（13—16秒）。これは生芝のグリーンの特徴であるが、その違いの度合いがやや大きく感じられた。
- 2) 変わりやすい天候のため、雨の後と晴れの日では極端にスピードが変わった。さらに、
- 3) 海から吹く風が強く、グリーンが早い日の風は追い風状況では18秒くらいに感じられるようにかなり難しかった。
- 4) 会場は3つのクラブに分かれており、グリーンによってスピードやクセが違っていた。

このように、毎日、毎回変わるコンディションにいち早く慣れるかどうか勝敗を分けるポイントだった。私たちのチームは数エンド（4—5エンド）以上かかり、一方競合トッププレイヤーは1—2エンドですでにラインもウエイトも合わせて来ていた。

フォーズでは初戦フィジーに負けて、スタートがうまくいかず、かなり苦戦を強いられる試合になりそうだと懸念した。2日目の第1試合に中国に勝ち、第2試合のパプアニューギニアに負けたことで、フィジーと合わせて2敗。セクションを勝ち抜くにはこれらの国から勝ちを拾って行けなくては行けないので、あとには引けない状況に追い込まれた。その後リードとセカンドのオーダーを変えたことも手伝って、予想以上の戦いを見せて、タイ、香港には快勝。しかもオーストラリア戦は勝ちが目前にありながら惜しくも引分けと十分な成績を残せたために、来年の世界大会に繋がってよかったと思う。

ペアーズでは、最初からニュージーランド（最強豪）と対戦でなんとか差を少なくして次につなげたかったが、相手スキップ Edward にはプレッシャーを十分に与えることができずに完敗。

初日強風の中でプレーしたフィリピンにも差をつけられて、勝ちがあげられなかった。

初日の強風コンディションでリードがうまく入れてくれたもののスキップが合わせられず、2—3日目の雨天での試合は重たいグリーンでリードのショートボウルに悩ませられながらも Weighted ショットでしのいだ部分もあったが、追いつかず結局マカオとニウエしか勝てなかった。

カナダ、フィジー、マレーシアは勝てる可能性が最後まであったものの詰めの甘さで勝つことができなかった。セクション中7位で6位のカナダは4勝だったので、この3つの中から最低あと1つ（カナダに勝っていたら）あるいは2つ勝たなければ世界大会には残れなかったが、可能性があっただけに悔やまれる。

個人的には課題の残る大会だった。技術面では風への対応。早速新しいボウルを手配して現在サイズ2からサイズ3でどう変わるかを試してみる予定。戦術面では、試合中投げ急がないこと、特に大事な場面では時間一杯考えて最適なショットを選択して投げる習慣をつけたい。

Asia Pacific Championship を終えて

LC 京都 小山 潤

今回の大会を振り返り寄稿するにあたり、平成 28 年 3 月 31 日（通巻第 131 号）の BJ ブリテンに自身が寄せた『World Cup 大会で戦っての報告』を読み返していました。3 年前に感じたことと、今大会を終えて感じたことは共通する部分が依然として多く見られます。前回のレポートと重複する部分は省きますが、今大会で特に感じたことを記したいと思います。

今大会、オーストラリアやニュージーランド、マレーシア等、世界のトップボウラーたちに対し、国を代表して出ている以上、恥ずかしい試合はできないし、本気で勝つ気で挑みました。結果としては、まだまだ差を感じますが、決して勝てない訳ではないと感じました。私たちが在日ボウラーが彼らと対等に渡り合うには、技術の向上はもちろんのこと、いかなる状況下でも自分の力を出すことのできる経験や自信が必要になります。私たちが限られた環境の中で如何にそれらを培うか。それは普段の練習や試合における『一球へのこだわり』に尽きると思います。この話は以前、BJ 技術競技部が主催しましたレベルアップ講習会でもお話させて頂きましたが、改めて、世界のトップと闘い痛感した次第です。特に、大事にすべきと感じることを下記 3 点にまとめます。

（1）『1 球目に最大限の集中力を』

どれだけ優秀なボウラーであっても、初球から相手に良い投球をされるとプレッシャーを感じ、良い投球をした方は 2 球目以降、より戦略的に試合を進めることができます。これは勝負に大きく影響します。「良いリードのいるチームは強い」のも当然です。

（2）『1 球目より 2 球目、2 球目より 3 球目』

前に投げた球より、次に投げる球をよりジャックに寄せることを常に自分に課しているか。そのプレッシャーを日頃から自分にかけているか。その意識があれば、必然的に 1 m のウェイトコントロールの足し引きを練習せざるを得ません。また、仮に自分の投球にミスがあったとしても、それは単なるミスに終わらず、必ず次の投球に生きるものになるはずで

（3）『求められたところに投げる』

これは特にチームゲームにおいて求められます。スキップは、そのエンドのボウルの配置だけではなく、ゲーム展開や相手プレイヤーの力量など、様々な要素を勘案し、味方にボウルを要求します。それを忠実に構成するのが前のプレイヤーの役割になるので、スキップの指示を得て、投球することがとても大切です。失敗してもいいから、普段から狙いを持って投球すること。それに対して、出来たことと出来なかったことをまたしっかり検証して、練習するサイクルが上達の近道だと考えます。求められたことに応えようと投球してミスすることは決して恥ずべきことではなく、その連続が自身を鍛えることにつながると思います。是非、みなさんも普段のゲームからスキップの指示を待って投球するよう心掛けてください。

これらを普段からどれだけこだわってプレーするかは、自分自身の課題です。同時に、みなさんもこ

れらを意識して技術の向上をさらに得ることが出来れば、普段のゲームがより戦略的で緊張感あるものになり、日本のボウラー全体のレベルアップに必ずつながると信じています。

そこから、日本チャンピオンを決める日本選手権がさらに盛り上がり、日本代表の世界一への挑戦をみんなで応援し、熱くなればと思います。

一球の大切さを思い知った男子トリプルズ準々決勝戦

神戸学園都市クラブ 森 紘一

森 紘一（リード）、佐藤寿治（セカンド）、長谷部健太（スキップ）で戦った男子トリプルズは、予選ラウンドを5勝3敗でグループ内2位となり、決勝ラウンドに進出した。

前回大会（2015年、ニュージーランドで開催）では江村健一、佐藤寿治、長谷部健太の3人で銀メダルを取っているのですが、今回も何とかメダルを取りたかったが決勝ラウンドの第1戦（準々決勝）でインドに敗れて希望は叶わなかった。そのスコアの推移は下表の通りである。

エンド		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
日本	得点	-	-	-	1	-	-	1	1	3	4	6	7	8	-	-	-	-
	累計	-	-	-	1	1	1	2	3	3	4	6	7	8	8	8	8	8
印度	得点	2	2	1	-	1	1	-	-	2	-	-	-	-	1	1	2	2
	累計	2	4	5	5	6	7	7	7	9	9	9	9	9	10	11	13	15

一人2球で18エンドのトリプルズ戦（最近の国際選手権大会の標準）であるので、実力がほぼ対等のチームの対戦の場合は1エンドでの大量得点というのは滅多になく、1点ないし2点ずつの取り合いとなる。前半は日本の出足が悪くてインドに先行され、6エンド目までで1：7とリードされたが、7エンド目から日本チームのエンジンがかかり、7エンドから13エンドまでの合計7エンドで日本が6エンドを取り、スコアも8：9と追いついて流れは完全に日本に来ていた。

ところが、「ここで一挙に逆転して勝てる」とリードの私が意識したのが良くなかった。ジャックはミドル位のほぼ適切な距離に投げられたが、第1球を「ここでジャックにきちんと寄せなければ」と少し慎重になり過ぎて、投球のリズムが少々崩れたのであろう。ボウルはジャックの手前約1mショート的位置で止まってしまった。

「なんでこの追い込みの大事な局面でショート・ボウルを投げるのか！」というチーム・メイトからの無言の言葉が私の心に突き刺さった。

相手のリードは「占めた、チャンス！」とばかりに、その第1球をピタリとジャックに付けて、このエンドは相手に1点を取られ、その差は2点に開いてしまった。相手のリードはこれで勢いを取り戻し、次々に第1球を精度よくジャックにピタリと付け始めた。それだけでなく、ツキまでが相手に廻ってしまって、後続のセカンド、スキップがジャックに当てて動かしてもそれが味方の方に来るのではなく、相手のボウルの方に寄るといふ具合で、流れは完全に相手側になってしまった。

そしてそのままズルズルと4エンドを連続して相手に取られ、負けてしまった。

全ては、14エンド目の私の第1球をショートさせたことが流れを変えてしまったのである。

リードの第1球の大切さをあらためて思い知らされた痛恨の敗戦であった。

2019 Asia Pacific Championships に出場して

ローンボウルズクラブ京都 小山裕木恵

今回、Asia Pacific Championships のトリプルス及びフォアーズに出場させて頂き、2度目の国際大会で、初のチーム戦でした。

私自身、試合全体を通して終始緊張していたと感じます。ポジションはリードなのでとにかく正確なドロワーが必要ですが、特にウエイトコントロールが思うようにできませんでした。

普段通りに、と思うのですが無意識のうちに緊張してしまい、そうすると手が汗ばみボウルが滑る、身体が委縮し、体重移動からリリースのタイミングもズレてしまいました。

これまで、これ程に自分自身をコントロールできなかったことがなく、どのように対処すればよいかわからず、次の投球・試合でも気持ちの切り替えがうまくいかず混乱し、悪循環に陥り、一投一投に集中できずチームへ大変迷惑をかけてしまいました。

今回の大会を通して、技術向上はもちろんのこと、メンタルトレーニングもとても重要だと痛感しました。フォアーズは来年の世界選手権に繋がられたので、この一年間、普段から試合と同様の緊張感を持った練習に取り組み、レベルアップに励み、悔いのない試合ができるよう努力する所存です。